

アップサイクル ～三朝町の空き家の家具をアップサイクル～

鳥取県立倉吉西高等学校 第3学年(ステージ3)

代表者: 山根光稀 源康介 森野夢香

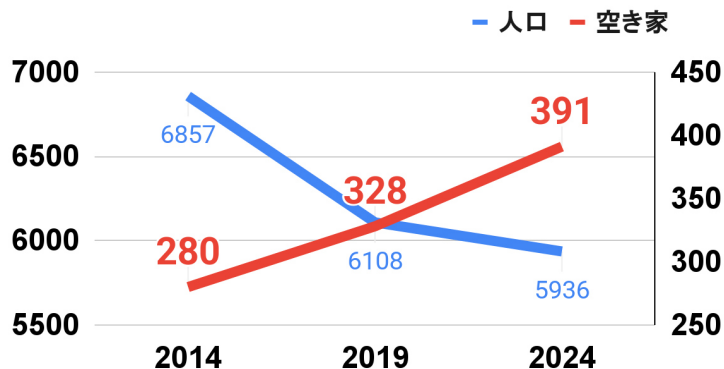
はじめに

私達は、地域の空き家問題解決に取り組むために三朝町役場と協力して活動を行っています。

1 活動の背景

私が住んでいる町は三朝町という鳥取県中部に位置する人口が約6,000人ほどの町です。三朝町には日本遺産である「三徳山投入堂」やラジウムで有名な三朝温泉があります。コロナあけから観光客数は増加傾向にある三朝町ですが、町内の人口は年々減少傾向にあります。その主な原因としては少子高齢化が大きく関わっていると考えられます。三朝町では少子高齢化による人口減少によって町内の空き家の数が増加傾向にあります。

三朝町の空き家件数 と 人口



参考: 三朝町健康企画課より

上記のグラフが三朝町の空き家件数と人口を表しています。青のラインが人口、赤のラインが空き家件数を表しています。グラフから分かるように人口は年減少しているのに対して、空き家件数は増加していることがわかります。

2 三朝町の空き家課題

そこで私達は三朝町の空き家課題について考えました。私達が考えた課題は、空き家内に家具が残されていることで借り手が見つらず、空き家件数が増え続けてしまっていることです。空き家に家具が残されていることのデメリットは、高額な処分費用がかかってしまうこと、不法侵入のリスク、家屋の劣化・破損など様々なことが挙げられます。それに加えて、空き家を賃貸に出した際に家屋内に家具が残されている状態だと借り手がつきにくいことも課題の一つだと考えています。

3 MISSION

2で考えた課題から次は私達にできることは何かを考えました。私達が考えたMISSIONは、「空き家に残された家具を無駄にしないために私達にできることはなにか」と題したMISSIONです。

そこで私達が考えた解決策があります。それは、廃材を椅子にアップサイクルし、三朝町のふるさと納税の返礼品に登録することです。

そもそも、アップサイクルとはなにか説明します。アップサイクルとは廃棄される予定だったものや不用品に新しい価値をつけて作り変えることです。私達がこのような取り組みを解決策として実践しようと考えたかという、三朝町の空き家からでた廃材で新たなものを作り出して、それをさらに三朝町のために変換することに関心をもったからです。

次に、アップサイクルとリサイクルの違いについて説明します。

4 実践活動

MISSIONを踏まえて私達は廃材アップサイクルの実践活動を行いました。これらの活動を行うことで私達の活動が少しでも地域の活性化につながってほしいと考えました。その取り組みの一つとして、ふるさと納税の返礼品として出品することを目標に、空き家から出た廃材を回収し、それらを再利用して椅子を制作しました。

1 実地調査

下記の写真が私達が実際に行った実地調査の様子です。私達は町内にある2つの空き家を訪れ、室内の状況や残されている家具について調査を行いました。調査を通して気づいたことは、空き家の中にはまだ十分に再利用することができる家具が多く残されていたことです。どちらの空き家にも共通して言えることは、長い時間使われていないにもかかわらず、比較的きれいな状態の家具が多く見られたことです。机や棚、長持ちなど、少し手を加えれば再び使えるものが多く、「このまま処分されてしまうのはもったいない」と強く感じました。そこで、再利用可能だと判断した廃材を一部回収し、椅子制作の材料として活用することにしました。実地調査を通して、廃材を使った椅子制作は、空き家問題の改善だけでなく、ものを大切にする気持ちを広げることにもつながると感じました。

2 椅子へアップサイクル



ふるさと納税に出品するまでの流れ

①木材加工②表面を削る③組み立て④オイル塗装⑤ふるさと納税に出品

実地調査後私達は、上記のような流れで作業を行いました。この取り組みを多くの方に知ってもらうためにも、ふるさと納税の返礼品として出品することを目標に活動しました。そのため、私達は夏休み期間を活用し、プロの職人の方に協力していただきながら、回収した廃材を使って、椅子の制作に取り組みました。材料の加工方法や強度の保ち方、安全性などについて専門的なアドバイスを受けながら、一つ一つ丁寧に制作を進めました。

STEP1:木材のカット

最初の作業は木材のカットです。自分たちが考えた設計図に合わせて木材のサイズを調整し、椅子の強度や座り心地を考えながら、必要な長さを正確に測り、印をつけてから慎重にカットしました。わずかなずれでも完成後のバランスに影響が出てしまうため、プロの職人の方に確認していただきながら、丁寧に作業を進めました。



STEP2:椅子の表面を削る

次は、カンナやヤスリなどを使い、椅子の表面をなめらかに削る作業を行いました。木材のささくれや角の部分を丁寧に整え、手で触れたときに安心して使えるように仕上げていきました。また、見た目も美しくなるよう、木目を意識しながら慎重に磨きました。細かい作業でしたが、座り心地や安全性に大きく関わる重要な工程でした。



STEP3:組み立て

椅子の座面と脚をネジで固定し、穴あけなどの作業を行いながら組み立てました。ズレが生じないように位置を正確に確認し、慎重に穴をあけてからネジでしっかりと固定しました。

椅子は体重がかかるため、強度や安定性を意識しながら作業を進めました。

STEP4:オイルを塗る

椅子を作る最終工程として、椅子全体にオイルを塗り、仕上げ作業を行いました。木材の表面に丁寧にオイルを塗り込むことで、木目がより美しく浮かび上がり、自然な深みが引き立ちます。ムラが出ないように慎重に何度も塗り重ね、乾燥させながら丁寧に仕上げました。

STEP5:ふるさと納税に出品

完成した椅子をふるさと納税の返礼品として出品しました。実地調査から材料の回収、制作まで自分たちで取り組んできた椅子が、地域の魅力を発信する一つの形となりました。



1/6



【ふるさと納税】高校生の子びを応援！空き家再生アップサイクル椅子「空き家の廃材を使ったRelaxChair」
三郷町 ふるさと納税 木の椅子2人用

38,000円

34,000円 送料無料

ショップへ相談 楽天ポイントが付与されます

※実際に完成した椅子



寄付を申し込む

※ふるさと納税の出品

品

上記の写真は実際に私が制作した椅子です。この椅子の商品名は「RelaxChair」です。この椅子のポイントは背もたれの角度と木材の素材です。なんども自分で座って角度を確かめながら何度も試行錯誤を重ねて制作しました。木の素材は椅子は人が一番触れるところなので特に重視しました。オイル塗装もムラが出ることをないように丁寧に仕上げをしました。

5 結果

結果としてはふるさと納税出品後実際に寄付をいただくことができました。長い時間をかけて丁寧に仕上げてきたからこそ寄付をいただくことができとても嬉しかったです。この活動が少しでも多くの方に届

いたと実感しています。それに合わせてこの活動をすることで空き家の家具を減らせることもでき、空き家問題の解消にもつなげることができました。

6 考察

今回の活動を通して、空き家内の不要家具を減らすことができた。しかし、この活動を一度きりで終わらせるのではなく継続的な取り組みが必要だと考えました。

7 提言

考察を踏まえて私達が考えた提言は、町内の小学生を対象としたワークショップを開催することです。この提言を考えた理由は、小学生の夏休み課題で工作があるので、ワークショップで工作を作ることによって課題を終わらせることができるのに加えて、私達が目指しているものを無駄にしないという考え方をひろめることができると考えたからです。

この提言内容は実践可能なのか、私達は冬休みに三朝町役場の方に上記の内容を提言しに行きました。その結果、提言内容は実践可能であることがわかりました。提案してみて気づいたことは、実践するには費用がかかるためもっと提言内容を深める必要があるということです。

私達が考えるワークショップを開催することで得られる効果は、ものを無駄にしない意識を高めることです。私達も実際にアップサイクルの活動をしてみてこのような意識を持つことができました。なので、まずは町内の子供を中心にワークショップを開催することで空き家内の家具を無駄にしない考え方を身に付けてもらうことができると考えます。

8 まとめ

今回の活動で私達は、空き家問題の改善と資源の有効活用ができました。実際に自分たちでアップサイクルしてみて、ものを無駄にしない意識を改めて持つことができたので、今後はこの意識をもっと広めていくことが重要であると感じました。これらの活動を継続的な取り組みとしてもっと発展させていく必要があると感じました。たくさんの方に協力していただき、とても充実した活動を行うことができました。